

# 青森県の気候に適した 造林用「コンテナ苗」の生産方法

林業の経営環境が厳しい等の事情で、伐採した後に再び造林が行われない“再造林放棄地”が増加しています。人工林の荒廃や森林資源の減少はもとより、森林の持つ公益的機能の低下も懸念されることから、放棄地解消を目指してさまざまな取組が行われています。

林業研究所では、造林コストを削減するための技術開発を進めており、その取組のひとつである「コンテナ苗」の活用について、本県での生産の可否を検討しています。

## コンテナ苗とは

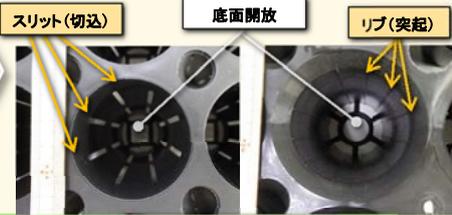
樹脂製の多孔容器(マルチキャビティコンテナ)を使って育てた苗木のこと



マルチキャビティコンテナ

◆複数の育成孔(キャビティ)を配置した容器

## キャビティの機能



孔の側面に切込や突起

根巻き防止

生長に伴う根同士の締め付けを防ぐ

孔の底面は開放

空気根切り

底面で自然に根切りする効果

苗が根鉢を作るため植穴が小さくて済む

従来の苗に比べて  
植栽効率が約2倍



スリット(切込)付で育てた苗

リブ(突起)付で育てた苗



従来の苗(普通苗)

## 育苗方法

## 播種～越冬までの育苗

①直置きで育苗



根が底面に到達するまで

②懸架で育苗



底面に根が到達してから

③晩秋に再び直置き



④雪に埋めて越冬



越冬明けのスギ、クロマツ及びヒバの枯死率は0%

ヤシ殻などの有機培地を使用

水はできる限り毎日与える

追肥・農薬散布は普通苗と同じ

コンテナ苗の  
苗高 (cm)  
<11月計測>

クロマツ  
(A)と(B)の有意差:  
なし

スギ  
(A)と(B)の有意差:  
あり

ヒバ  
(A)と(B)の有意差:  
あり

(A) コンテナ苗 (5月末播種)	10.0±2.2cm (937株調査)	10.4±2.9cm (800株)	5.1±1.3cm (800株)
(B) 普通苗* (4月中旬播種)	10.0±2.8cm (30株)	11.9±2.9cm (28株)	7.3±1.1cm (28株)

\*苗木生産業者から入手

クロマツを除いて普通苗よりもコンテナ苗の苗高が小さい値でしたが、これは播種時期の違いによるものと考えられます。

## 今後の展開

これまでの結果から、本県でもコンテナ苗の育成は可能と思われます。現在、育苗を継続し、植栽試験も実施しています。これらの成果を基に、コンテナ苗の早期普及を目指します。

## お問い合わせ

林業研究所 森林環境部 (Tel017-755-3257)



編集・発行

地方独立行政法人 青森県産業技術センター 農林総合研究所

〒036-0522 青森県黒石市田中82-9 TEL 0172-52-4346 FAX 0172-52-4399

ホームページ <http://www.aomori-itc.or.jp/>